体験通し自身を育てる

高校の修学旅行や教育旅行は、見る行為から一歩進んで自ら五感を使い、何かを感じ取る体験が主流になってきた。さらに、核家族化で希薄になった人間関係を、肌で感じる民泊も人気が高い。一方で、多感なこの時期だからこそ、日本の歴史や文化に触れ、あるいは平和学習など、知識と日本人の生き方を自ら感得する必要性が、グローバル化の中で改めて問われている。学校が求め、実施している旅行とはどのようなものか。目的や教育的意図、効果などを取材した。

北海道ニセコ高等学校
マレーシア　5泊6日
16年10、11月　実施

YTLホテル学校との交流で国際感覚を養う

ＹＴＬホテルスクールズでのケーキ作り体験

北海道ニセコ高等学校（田邊裕二校長）は、ニセコ町立の昼間定時制学校。全国で唯一の「緑地観光科」内に「農業科学コース」と「観光リゾートコース」の2コースを設定している。全校生徒数は約80人と小規模。豊かな自然を基盤とし農業と観光が基幹産業となっている地域の特性を背景に、農業と観光の未来を担う、地域に根差した産業人の育成を目指す。

農業科学コースでは、野菜や花の生態と、健康に育てて収穫するための知識と技術を学ぶ。食品を加工し、自ら販路を開拓する、アイデアあふれる農業人を育てる。

観光リゾートコースでは、ホスピタリティ（おもてなし）を念頭に、観光ビジネスに関する知識と技術を学習。人と人とのつながりを大切にし、幸せと喜びを提供できる心豊かな観光産業人を育成する。

ＹＴＬホテルスクールズでレストランサービスの授業を受ける

ＹＴＬホテルスクールズの学生、教師との夕食交流会

中谷知記教諭

林大輔教諭

同校の特色の一つが、2年生で実施するマレーシアへの見学旅行。ニセコ町のホテル「ヒルトンニセコビレッジ」を経営するマレーシアの「YTLホテルズ」と連携し、ニセコ町からの支援を受けて2011年度から始まった。

その目的は①緑地観光科の特性を生かし、自然環境・生活環境や旅行・観光に付随することがらを体験する②訪問国の文化を知り、日本文化と比較して文化や伝統の違いを尊重する態度を養う③YTLホテルスクールズの学生との交流を積極的に行い、国際交流の重要性を認識する④豊かな国際感覚を身につけ、生活背景が異なる人たちとコミュニケーションをとることで、自分とは違う人に対しても寛容に受け入れる柔軟性を身につける⑤事前・事後学習を含めて見学旅行全体をクラス全員で取り組むことで信頼関係、協調性を高め、進路活動を含めた今後の学校生活の足掛かりとする―の五つ。

6回目となる昨年の見学旅行は10月30日から11月4日までの5泊6日の行程で実施。2年生の男女23人が参加した。

1日目は千歳へ専用バスで移動し、市内のホテルに宿泊。2日目に航空機で新千歳空港から成田空港を経てクアラルンプール国際空港に到着。クアラルンプールのホテルに宿泊した。

3日目は、新王宮、国家記念碑、国立モスク、独立記念広場など市内観光。錫工場の見学、ピューター加工制作体験や、バティック店、チョコレート店の見学なども行った。

4日目はYTLホテルスクールズでの活動。4班に分かれて、「テ・タレとモクテル作り」「マレーシア料理」「ナプキン折り」「レストランサービス」の授業をローテーションで受けた。同校の学生たちと交流しながら実技も体験した。

5日目はジョンカーストリートでの自主研修、マラッカ世界遺産の散策などを行った後、空路で日本へ。6日目に成田空港から新千歳空港に降りて、学校に帰着した。

修学旅行の一番のメインは、YTLホテルスクールズとの交流だ。今回の旅行全般を担当した林大輔教諭は「生徒たちはお互いに、英語でコミュニケーションを図っていた」とその成果を語る。

夕食交流会では、五つの班がそれぞれテーマを決めて、食や地理、気候など日本とマレーシアの違いを英語で説明するプレゼンテーションも行った。「当日の発表も大事だが、事前の準備で生徒が自分でいろいろと物事を考えることに意義がある」と林教諭。

修学旅行の感想を聞くと、「英語ができないとコミュニケーションがとれない。もっと英語を勉強したいという気持ちが強くなった」など英語の重要性を実感した生徒が多かった。

紫のローブを着て国立モスクを見学

国立記念碑前で記念撮影

最初、緊張もあってなかなか自分から英語で話しかけられなかった。しかし、YTLの学生たちが英語をゆっくりと話すなど良くしてくれて、夕食時の交流会には一緒に写真を撮ったりしてコミュニケーション能力を向上させるよう地域の外国人や町のCIR（国際交流員）と連携した取り組みを計画している。

マレーシアへの見学旅行は17年度も継続するが、内容については見直す方針だ。引率した中谷知記教諭は「農業科学、観光リゾートのコース別に特色を出していく。観光リゾートはYTLとの交流やホテル実習、現地でのニセコ観光のPR展などを実施する一方、農業科学は現地特有の農作物や植物を見学し、日本との関連性を学びたい」と構想を明かす。

世界で活躍できるマネジメント能力のあるホテル人材を育成する、との考えで始まったマレーシアへの見学旅行。16年にはヒルトンニセコビレッジから就職内定をもらう生徒も出たという。

今後は観光教育の中で英語でのコミュニケーション能力を向上させるよう地域の外国人や町のCIR（国際交流員）と連携した取り組みを計画している。

文教大学付属高等学校
台湾　4泊5日
16年11月　実施

海外の未知の環境で何ができるか考え行動

中国語学習

文教大学付属高等学校（戸田弘美校長）は、東京・品川区に校舎を置く中高一貫教育校。校訓として「人間愛」を掲げ、強い心を育む教育を行い「他者のための自己の育成」に努める。

2014年には新校舎を建て、教室には電子黒板を完備するほか、放課後の「自立学習支援システム」として、専任のチューターが個々の生徒に合わせた学習をサポートする特別室「文教ステーション」を設けるなど学習環境を整えている。

星野喜代美ＳＡ

このほか、式典やコンサートが開催できる「LOTUS HALL（講堂）」、約4万2千点の資料を所蔵している図書室、トレーニングルームや室内温水プールも完備した体育館などの施設を備える。

特色ある教育の一つとして、英語、中国語圏への進学指導に力を入れている。海外の大学と連携した取り組みを進め、世界で活躍できる人材を育成する。

同校の修学旅行は「日本ではない世界を知る」「日本の大学と他国の大学の格差を知る」を目的に、15年度から台湾で実施。英語教育の一環として台湾の大学との国際交流や英語、中国語の現地学習に取り組む。

海外を修学旅行先として選ぶ際に一番大事にしたことは、安全に連れていける場所であるかどうか。現地の治安や情勢を考慮し、保護者や生徒が安心できる場所として台湾を選んだ。

海外での修学旅行に臨む生徒に対し、同校の前校長であるシニアアドバイザーの星野喜代美氏は「海外という新しい環境の中で、生徒自身が何をできるかを考えて自主的に行動し、多くのことを学んでほしかった」と語る。

歓迎セレモニー

Ｂ＆Ｓプログラムによる市内観光

16年度の修学旅行は、台北を旅行先に11月8～12日の4泊5日で実施。対象年次の255人が参加した。「台湾の『今』の息吹を感じ国際社会への関心を高めよう」がテーマ。「今」しかできない経験を自分の未来につなげるため、現地大学生とのコミュニケーションなどを通じて国や人のつながりを感じることができるプログラムを組んだ。行程は、外国語教育と外国の歴史や文化体験を柱として構成した。

修学旅行では、現地の大学生と対面式の後、現地大学生と一緒に台北市内を巡るB&S（ブラザーアンドシスター）プログラムを実施し、英語でコミュニケーションを取りながら観光を行った。また、台北市の中國文化大学を訪れた。歓迎セレモニーやウェルカムパーティーで大学生と交流を深めたほか、英語を使用して中国語を学ぶなど、外国語の語学力向上プログラムを実践した。

九份観光

故宮博物院も見学

また、台北市内の観光スポット巡りや茶芸、パイナップルケーキ作り、小龍包料理実習、天燈上げなどの体験学習を行い、台湾の歴史や文化に触れた。

このほか、総統府、忠烈祠など台北の歴史的建造物、饒河街観光夜市、ノスタルジックな坂の街「九份」、故宮博物院などを見学した。

帰国後、多くの生徒は大学生との交流が最も印象的で思い出に残っていると話した。勉学に励む姿勢や行動姿勢など、大学生と自身との違いを感じたようだ。

修学旅行の成果について星野氏は「感じるものがなければ何も変わらない。修学旅行でさまざまなことを感じながら、生徒が自ら目的を立てて、考えて行動できた。生徒が自主的に考える力を向上させ、自立して行動できる人へと成長するきっかけになれば」と述べた。

修学旅行とも連動した取り組みとして、希望制で中国語の教室を設け、台湾の大学への進学に向けた講座を開設している。また、台湾の大学生を招待し演奏発表会をするなど国際交流を深めている。進路にも変化があり、オーストラリアのメルボルン大学に1人、クイーンズランド大学に2人が進学している。

また、理想の修学旅行について星野氏は「現在、修学旅行は過去に習った行程をこなすだけとなりマンネリ化している。修学旅行を有意義にするにはインパクトが必要。心が揺さぶられる経験をすることから得られるものは大きい。インパクトを与えるところはどこか。インパクトが子どもにどう当てはまり成長につながるかを考えることが必要」と語った。

映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

お手軽な時代劇の扮装体験
時代劇の扮装をして映画村の江戸の町を歩いてみませんか。メイクなし、かつらも省いた着物の着付けだけのお手軽プランなら、短時間で「変身」して時代劇の世界をお楽しみいただけます。
【扮装種類】町娘・振袖若衆・武家内儀・千姫・若侍・遠山奉行・町人・浪人・坂本龍馬・新選組隊士・忍者

清水焼絵付け体験
【染付】素焼の生地に絵付けをしていただきます。染付の色はグレーと茶色の2種類あります。
【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3～5色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

京扇子・京うちわ手描き体験
舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

お手軽な時代劇の扮装体験

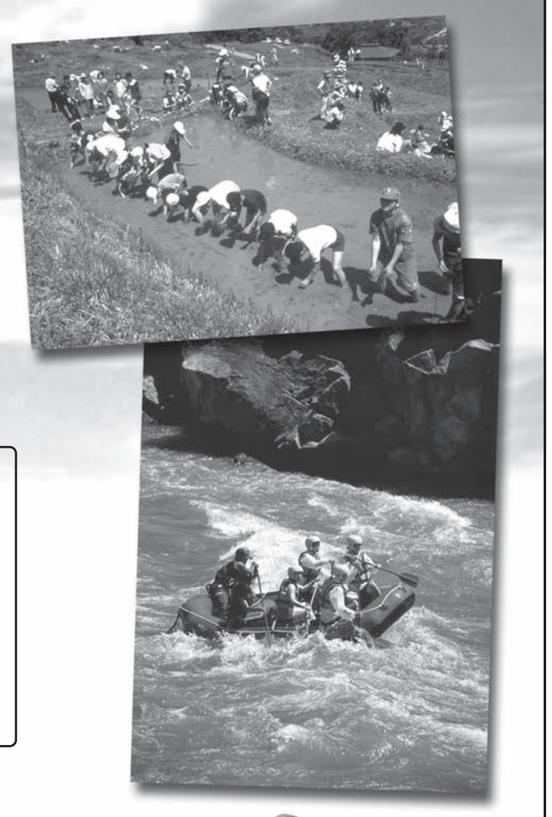
清水焼絵付け体験【染付】
清水焼絵付け体験【京焼】

京扇子・京うちわ手描き体験

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで！
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
ナビダイヤル ✆0570-064349　お問い合わせ ✆075-864-7716
営業時間 /9:00～17:00（3～7、9月の平日と10、11月毎日）
9:00～18:00（3～7、9月の土・日・祝と8月毎日）
9:30～16:30（12～2月の平日）
9:30～17:00（12～2月の土・日・祝）
休村日 / 2018年1月15日～19日

年間4300校以上（平成27年度）にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は

(一社)長野県観光機構は、長野県庁内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。
資料請求・お問合せは下記まで！
皆様のご来県をお待ちしております。



お問合せ・資料請求先
(一社)長野県観光機構　担当:吉池・北沢
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3233
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁 1階